

平成28年度資源評価報告書(ダイジェスト版)

[Top](#) > [資源評価](#) > [平成28年度資源評価](#) > [ダイジェスト版](#)

標準和名 サメガレイ

学名 *Clidoderma asperrium*

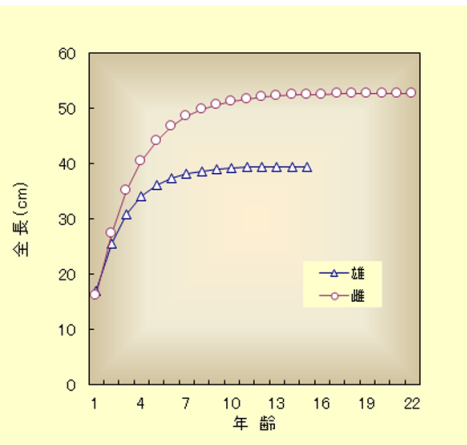
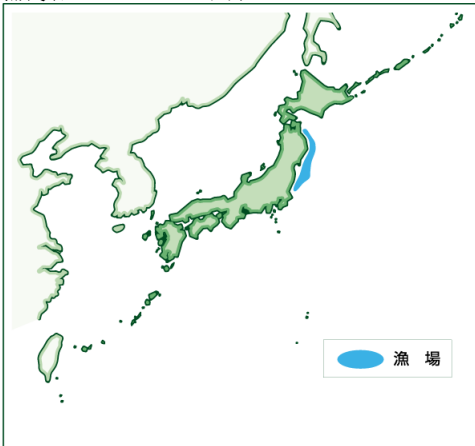
系群名 太平洋北部

担当水研 東北区水産研究所



生物学的特性

寿命： 雄15歳、雌22歳
成熟開始年齢： 雄2歳（一部）、3歳（ほぼ100%）、雌3歳（一部）、4歳（ほぼ100%）
産卵期・産卵場： 1～2月、水深600～900mの深海域
食性： クモヒトデ類
捕食者： 不明

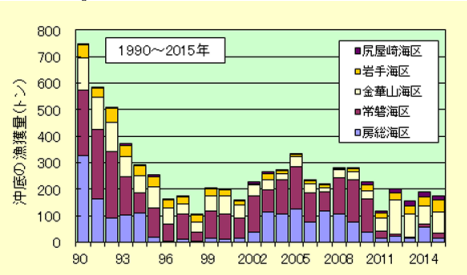
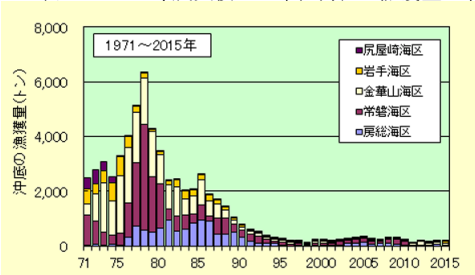


漁業の特徴

主に沖合底びき網(沖底)により漁獲される。小型底びき網や刺網等でも漁獲されるが、これらの漁獲量は極めて少ない。漁場は、1970年代前半は金華山海区が中心であったが、1970年代後半には常磐海区、1980年代には房総海区に南下した。その後、1990年代以降は金華山・常磐・房総海区(宮城県～茨城県沖合)での漁獲が大部分を占めるようになった。

漁獲の動向

沖底による漁獲量は、1978年の6,329トンピークに減少し、1998年には過去最低の108トンとなった。その後、やや増加し、2006～2010年は200トン台で推移した。2011年には東日本大震災(震災)の影響で漁獲量は118トンに減少したが、2015年の漁獲量は176トン(暫定値)であった。海区別では、震災前は常磐・房総海区の漁獲量が大部分を占めていたが、震災後は金華山海区の漁獲量が増加している。

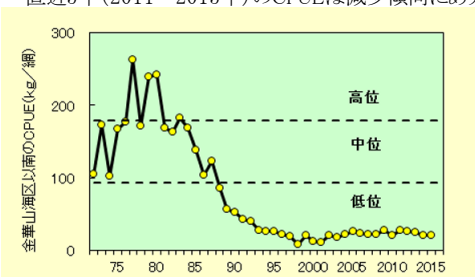


資源評価法

沖底の主要な漁場である金華山・常磐・房総海区の単位努力量当たり漁獲量(CPUE)の推移により資源状態を判断した。

資源状態

金華山海区以南の沖底によるサメガレイのCPUEは、1980年頃をピークに減少し、1990年代半ば以降は低い水準で推移している。資源水準の区分は、1972年～2015年のCPUEの最大値と最小値の間を3等分し、上から高位、中位、低位とし、水準は低位と判断した。直近5年(2011～2015年)のCPUEは減少傾向にあり、動向は減少と判断した。



管理方策

資源が低位水準にあるため、漁獲を抑えて資源を増加させることを管理目標とし、2017年ABCを算定した。なお、産卵期前後に集中的に漁獲されることから、漁獲を抑えて親魚量を確保する必要がある。

管理基準	Target/Limit	F 値	漁獲割合 (%)	2017年ABC (トン)	Blimit=
					親魚量5年後 (トン)
0.7・Cave3-yr・0.92	Target	－	－	100	－
	Limit	－	－	120	－

- Limitは、管理基準の下で許容される最大レベルの漁獲量。Targetは、資源変動の可能性やデータ誤差に起因する評価の不確実性を考慮し、管理基準の下でより安定的な資源の増大が期待される漁獲量。ABCtarget = $\alpha \times ABC_{limit}$ とし、係数 α には標準値0.8を用いた
- ABC算定のための基本規則2-1)により、 $ABC_{limit} = \delta_1 \cdot Ct \cdot \gamma_1$ で計算した
- δ_1 はCaveを用いる場合の低位水準の推奨値である0.7とした
- γ_1 は、 $\gamma_1 = 1 + k(b/l)$ で計算し、kは係数(標準値の1.0)、b(-1.722)とl(22.5)は金華山海区以南の沖底CPUEの傾きと平均値(直近3年間(2013～2015年))である
- Cave3-yrは2013～2015年の平均漁獲量
- ABCは10トン未満を四捨五入した値

資源評価のまとめ

- 主漁場である金華山・常磐・房総海区の沖底CPUEから資源状態を判断した
- 資源水準は低位、動向は減少

管理方策のまとめ

- 漁獲を抑えて資源を増加させることを管理目標として2017年ABCを算定した
- 漁獲が産卵親魚に集中しているため、産卵親魚の確保が必要

執筆者:服部 努・成松庸二・柴田泰宙・鈴木勇人・永尾次郎

資源評価は毎年更新されます。